

# このひとをじっくり探してみますか？

## 第22回

### 永井明 ながい あきら

(大正10年1月21日～昭和54年3月19日)



(個人蔵)

永井明は、大正十(一九二一)年一月二十一日、栃木県佐野市で生まれました。  
明は、幼い時にかかった小児まひのため歩行困難となり、東京の肢体不自由施設で小学校教育を受けました。その後、父の赴任先であった栃木市へ帰り、以後ほとんど独学で歴史、文学、哲学のほか、外国の習慣や言葉などを習得しました。

二十歳で父の転任地であった深谷市に移住後、児童文学を志し、児童文学作家の神戸淳吉、山本彰、高田彰らと児童文学同人誌『白い馬』を刊行しました。十五年にわたる発行期間中には、ほぼ一貫してその編集人を務めました。  
明自身の作品としては、昭和三十一(一九五八)年、デビュー作『レイ公物語』が出版されます。昭和四十四(一九六九)年に出版された『終りのない道』は、自伝的要素の濃い作品で、幼い時に小児まひにかかり肢体不自由となった少年が、自らの運命を呪いながらも必死に生きていく姿が描かれています。この作品は、障害児の視点から書いた文学作品としては先駆的なもので、また、当時の障害児がどんな医療や教育を受けたかなど、社会的記録にもなっていると言われます。  
明の作品や、生き方の支柱となっていたのは、キリスト教でした。明は十六歳で洗礼を受け、戦後、『深谷神の教会』の牧師として赴任したアメリカ人のドナルド・



▲明が敷地内に住んでいた当時の『深谷神の教会』

ゴーンズと出会うと、同教会の会員となって教会の敷地内に住み、児童文学に取り組み傍ら、平信徒伝道者、日曜学校校長として奉仕します。こうして、信仰心や教義への理解をいっそう深めていったのでしよう。  
昭和五十二(一九七七)年から、ゴーンズの帰国により、牧師が不在となった深谷神の教会の日曜礼拝を務めました。  
明は、自らの障害に不自由はないかのうちに明るく穏やかにふるまい、誰からも慕われていました。

### 用語の手引き

#### 『平信徒伝道者』

教職を持たない一信徒のまま、正規の教職の指導の下、あるいは牧師のいない教会で伝道を行う人

#### 『日曜学校』

キリスト教会などが日曜日に子どもを集め、宗教教育を行うもの

そして、短歌や俳句の勉強会、読書会を開催して、多くの人が教員を訪ねました。  
また、子どもたちには自らの児童文学作品を通して、より良い人間になるように望んでいました。  
二十歳から深谷の地で過ごした明は、昭和五十四(一九七九)年三月に急逝し、五十八歳でその生涯を終えました。

※本コーナーの全編を通じて、登場する人物については、歴史上の人物としてその敬称を略します。

誰からも慕われた児童文学作家【深谷市稲荷町】



深谷市議会議員 馬場茂

明けましておめでとうございます。市民の皆さまにおかれましては、希望に満ちた新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日ごろから市議会に温かいご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

現在、深谷市では、人口減少、少子高齢化、子育て支援などに関するさまざまな課題に対応するため、昨年『深谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略』を策定し、課題解決に向けた取り組みに力を入れています。市議会といたしましても、人口減少問題を最重要課題として捉え、課題解決に向けたさまざまな施策に取り組んでいかなければなりません。

今後は、行動する議会、信頼される議会へと議員一人ひとりがその責務を自覚し、政策立案能力を高めてまいります。市民の皆さまには、市議会への一層のご理解とご協力を心からお願い申し上げます。

本年が、市民の皆さまにとりまして、幸せで飛躍の年となることを心よりご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。

### 平成29年頭のごあいさつ

謹んで、新春のお慶びを申し上げます。

旧年中は、市民の皆さまには多大なるご支援、ご協力をいただき、心から感謝申し上げます。

今年の干支は『丁酉』ですが、60年前の『丁酉』には、世界初の人工衛星打ち上げに成功するなど、人類にとって新たな一歩を踏み出す年でした。自動車の自動運転や人工知能などの新たな技術開発が進む中、今年も60年前同様、人類にとって新たな一歩を踏み出すような出来事があるかもしれません。

そして今年、深谷市総合振興計画の最終年であり、各施策の総仕上げを行うとともに、次の10年の市政運営の指針となる計画の策定を進めてまいります。

社会情勢の見通しも難しい状況が続きますが、自治会訪問などを通じ市民の皆さまとの触れ合いを大切に、市政の発展にまい進していく所存です。

結びに、今年が皆さまにとりまして、明るく希望が持てる年となりますようご祈念申し上げ、新年のごあいさついたします。



深谷市長 小島進

### ありがとうの手紙



優秀賞 中学生の部 先生へ

明戸中学校3年(現高校1年) 櫻井尚人さん  
僕の担任の先生は、数学が大好きな音楽の先生です。毎日、2組の教室で先生と一対一で勉強をしています。

僕は数学が苦手、今日も眠そうにしていると『カリブ夢の旅』の歌詞「目を覚ませ、時が来た」と突然に歌い出し、僕を起こします。僕もつられて一緒に歌ってしまいます。いつも、とても厳しく、楽しく教えてください。

先生のお陰で苦手な数学が、少しずつ楽しく好きになってきました。ありがとう。



優秀賞 中学生の部 我が母なる星、地球へ

東京成徳大学深谷中学校3年(現高校1年) 川本実果さん  
地球。私達の星。かけがえのない生命の星。私にとって感謝すべき人、物は数えきれない。けれど、全てのものをたどっていくとやはり地球のおかげなのである。

私を作る約六十億個の細胞は遠い昔から受け継がれてきたもの。今私がこうして笑い、友と語り合い、おいしく食事を食べ、幸せに過ごせるのも、地球が生命を作りだしてくれたからである。私は地球に感謝し、日々を幸せに生きて、命を大切にしていこうと思う。私も地球に優しい生活をしていこう。